



認 定 書

国 住 指 第 1837 号
平成 29 年 9 月 26 日

一般社団法人日本壁装協会
代表理事 安田 正介 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第九号及び同法施行令第 108 条の 2 第一号から第三号まで（不燃材料）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
NM-4561
2. 認定をした構造方法等の名称
薬剤処理植物系繊維混紡織物壁紙張／基材（不燃材料（金属板を除く））
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 材料名

薬剤処理植物系繊維混紡織物壁紙張／基材（不燃材料（金属板を除く））

2. 形状及び寸法等

項 目	仕 様
形 状	平板
表 面 形 状	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様、又は組合せとする (1)平滑 (2)粗面 (3)エンボス
表面化粧材の厚さ(mm)	5.0 \pm 0.5 以下
表面化粧材の質量(g/m ²)	2000.0 \pm 200.0 以下

3. 材料構成

項 目	仕 様
表面化粧材	<p>薬剤処理植物系繊維混紡織物壁紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ5.0\pm0.5 mm以下 ・質量2000.0\pm200.0 g/m²以下(有機質量237.8\pm23.8g/m²以下) ・構成： <ul style="list-style-type: none"> [1]化粧：(1)～(3)のうち、いずれか一仕様又は(1)と(2)の組合せとする <ul style="list-style-type: none"> ・質量1727.2\pm172.2g /m²（固形量）以下（有機質量15.0\pm1.5g/m²以下） (1)合成樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・構成（g/m²） <ul style="list-style-type: none"> 合成樹脂^{※1}、有機質系添加剤^{※2}、有機質系顔料^{※3} <p>…10.0\pm1.0以下</p> （但し、合成樹脂としてポリエステルを使用する場合は 8.0\pm0.8 以下とする） 無機質系材料、無機質系充てん材、 無機質系顔料、無機質系添加剤^{※4} …0～1727.2\pm172.7 (2)撥水剤：①、②のうち、いずれか一仕様又は組合せとする <ul style="list-style-type: none"> ①パラフィンワックスの水系乳化体 ②フッ素樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・質量5.0\pm0.5g/m²（固形量）以下(有機質量5.0\pm0.5g/m²以下) (3)なし [2]主素材^{※5}：(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1)植物系繊維^{※6}混紡織物 <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ0.8\pm0.08mm以下 ・質量130.0\pm13.0g/m²以下(有機質量130.0\pm13.0g/m²以下) ・組成(質量%) <ul style="list-style-type: none"> 植物系繊維^{※6} ……50～100 合成樹脂繊維^{※7} …… 0～ 10 無機質系繊維^{※8} …… 0～ 50 (2)植物系繊維^{※6}混紡織物 <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ0.8\pm0.08mm以下 ・質量95.0\pm9.5g/m²以下(有機質量95.0\pm9.5g/m²以下) ・組成(質量%) <ul style="list-style-type: none"> 植物系繊維^{※6} ……50～100 合成樹脂繊維^{※7} …… 0～ 10 無機質系繊維^{※8} …… 0～ 50

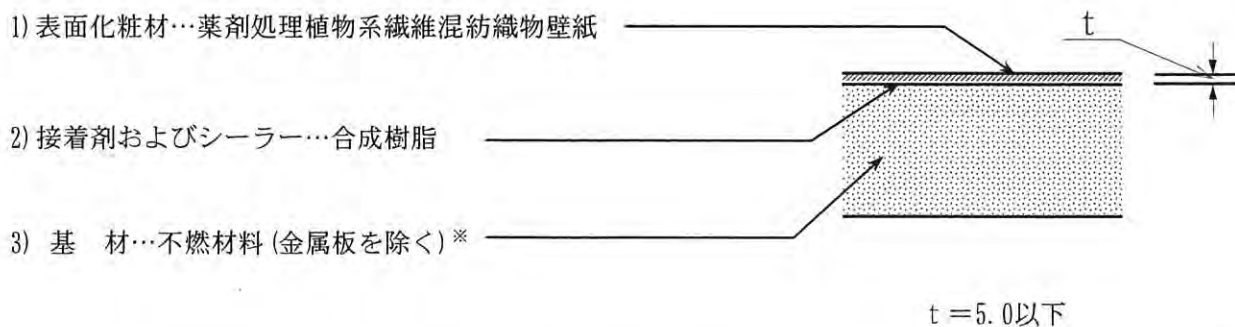
項 目	仕 様
表面化粧材 (つづき)	<p>[3] 接着剤^{※5}：(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) エチレン酢酸ビニル系樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・質量$20.0 \pm 2.0 \text{ g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$20.0 \pm 2.0 \text{ g/m}^2$以下) (2) 酢酸ビニル系樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・質量$20.0 \pm 2.0 \text{ g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$20.0 \pm 2.0 \text{ g/m}^2$以下) (3) 酢酸ビニル・アクリル系樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・質量$20.0 \pm 2.0 \text{ g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$20.0 \pm 2.0 \text{ g/m}^2$以下) (4) アクリル系樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・質量$19.0 \pm 1.9 \text{ g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$19.0 \pm 1.9 \text{ g/m}^2$以下) (5) なし ([4] 裏打材が (3) の場合に限る) <p>[4] 裏打材^{※9}：裏打紙 (1)～(3) のうち、いずれか一仕様とする</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 裏打紙 ([2] 主素材が (2) の場合に限る) <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ$0.5 \pm 0.05 \text{ mm}$以下 ・質量$150.0 \pm 15.0 \text{ g/m}^2$以下 (有機質量$100.0 \pm 10.0 \text{ g/m}^2$以下) ・構成 ($\text{g/m}^2$)：1) 又は1) と2) を組合せた仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 有機質：①、②のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> ①有機質系繊維^{※10} …100.0 ± 10.0以下 (但し、合成樹脂繊維^{※7}と植物系繊維^{※6}を組合せて使用する場合は、合成樹脂繊維^{※7}24.0 ± 2.4以下とし、かつ有機質量を80.0 ± 8.0以下とする。) ②合成樹脂^{※1} …… 13.6 ± 1.4以下 有機質系繊維^{※10}… 72.0 ± 7.2以下 (但し、合成樹脂^{※1}を使用する場合、有機質量を73.0 ± 7.3以下とする。有機質系繊維^{※10}として合成樹脂繊維^{※7}と植物系繊維^{※6}を組合せて使用する場合、合成樹脂系繊維^{※7}は$1.0 \pm 0.1 \sim 26.2 \pm 2.6$とする。) 2) 無機質： 無機質系充てん材^{※8}…$0 \sim 120.0 \pm 12.0$ (2) 裏打紙 ([2] 主素材が (1) の場合に限る) <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ$0.5 \pm 0.05 \text{ mm}$以下 ・質量$150.0 \pm 15.0 \text{ g/m}^2$以下 (有機質量$65.0 \pm 6.5 \text{ g/m}^2$以下) ・構成 ($\text{g/m}^2$)：1) 又は1) と2) を組合せた仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 有機質：①、②のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> ①有機質系繊維^{※10} …65.0 ± 6.5以下 (但し、合成樹脂繊維^{※7}と植物系繊維^{※6}を組合せて使用する場合は、合成樹脂繊維^{※7}15.6 ± 1.6以下とし、かつ有機質量を52.0 ± 5.2以下とする。) ②合成樹脂^{※1} …… 8.8 ± 0.9以下 有機質系繊維^{※10} ……46.0 ± 4.6以下 (但し、合成樹脂^{※1}を使用する場合、有機質量を47.0 ± 4.7以下とする。有機質系繊維^{※10}として合成樹脂系繊維^{※7}と植物系繊維^{※6}を組合せて使用する場合、合成樹脂系繊維^{※7}は$1.0 \pm 0.1 \sim 16.6 \pm 1.7$とする。) 2) 無機質：無機質系充てん材^{※4} …$0 \sim 120.0 \pm 12.0$ (3) なし ([3] 接着剤が (5) の場合に限る)

項 目	仕 様
表面化粧材 (つづき)	<p>※薬剤処理(上記[2]と[4]に処理を行う) 窒素ほう素臭素系化合物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質量$7.8_{\pm 0.7} \text{g/m}^2$(固形量)以下 かつ[2]主素材と[4]裏打材の有機質量に対して$4_{\pm 0.4}\%$(固形量)以上 ・組成(質量%) <p>窒素ほう素臭素系化合物……100</p> <p>※1 合成樹脂は、エチレン・酢酸ビニル系、酢酸ビニル系、ウレタン系、アルコキシシラン加水分解縮合物系、塩化ビニル系、アクリル系、アクリルスチレン系、シリコン系、ポリエステル系、フッ素系のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※2 有機質系添加剤は、発泡剤(アゾジカルボンアミド系、オキシビスベンゼンスルホニルヒドラジド系)、防かび剤、エチレングリコール、有機系機能性材料のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※3 有機質系顔料は、アゾ系顔料、フタロシアニン系顔料、縮合多環系顔料のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※4 無機質系材料、無機質系充てん材、無機質系顔料、無機質系添加剤は、酸化チタン、酸化鉄、酸化亜鉛、カーボンプラック、マイカ、炭酸カルシウム、タルク、水酸化アルミニウム、水酸化マグネシウム、三酸化アンチモン、ホウ酸亜鉛、シリカ、金属(箔、粉、糸状)のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※5 アゾ系、キノン系の染料、又は有機質系顔料^{※3}、無機質系顔料^{※4}を含む場合がある。</p> <p>※6 植物系繊維は、パルプ、綿、麻、レーヨン、スフ、キュプラ、アセテート、セルロース系繊維のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※7 合成樹脂繊維は、ナイロン、ビニロン、ビニリデン、ポリ塩化ビニル、ポリエステル、アクリル、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリウレタンのいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※8 無機質系繊維は、金属繊維糸、ガラス繊維糸、炭素繊維のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※9 裏打材は、紙、無機質紙、不織布(non wovenpaper)のいずれかとする。</p> <p>※10 有機質系繊維は、植物系繊維^{※6}、合成樹脂系繊維^{※7}のいずれか、又は組合せとする。</p>

項 目	仕 様
接着剤及びシーラー	<p>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>1) ・質量$60_{\pm 6}\text{g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$60_{\pm 6}\text{g/m}^2$以下)</p> <p>・構成: [1] 又は [1] と [2] を組合せた仕様とする</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div> <p>[1] でん粉系接着剤</p> <p>・質量$60_{\pm 6}\text{g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$60_{\pm 6}\text{g/m}^2$以下)</p> <p>・組成 (質量%)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">{</div> <div> <p>でん粉のり $80_{\pm 2}$ 以上</p> <p>補強剤^{※11} $20_{\pm 2}$ 以下</p> <p>(又は補強剤なし)</p> </div> </div> </div> </div> <p>[2] シーラー: 合成樹脂^{※12}</p> <p>・質量$10_{\pm 1}\text{g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$10_{\pm 1}\text{g/m}^2$以下)</p> <p>2) ・質量$40_{\pm 4}\text{g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$40_{\pm 4}\text{g/m}^2$以下)</p> <p>・構成: [1] 又は [1] と [2] を組合せた仕様とする</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div> <p>[1] メチルセルロース系接着剤</p> <p>・質量$40_{\pm 4}\text{g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$40_{\pm 4}\text{g/m}^2$以下)</p> <p>・組成 (質量%)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">{</div> <div> <p>メチルセルロース $80_{\pm 2}$ 以上</p> <p>補強剤^{※11} $20_{\pm 2}$ 以下</p> <p>(又は補強剤なし)</p> </div> </div> </div> </div> <p>[2] シーラー: 合成樹脂^{※12}</p> <p>・質量$10_{\pm 1}\text{g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$10_{\pm 1}\text{g/m}^2$以下)</p> <p>※11: 補強剤は、エチレン酢酸ビニル樹脂エマルジョン、酢酸ビニル樹脂エマルジョンのいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※12: 合成樹脂は、アクリル樹脂エマルジョン (アクリル酸エステル共重合体エマルジョン、メタクリル酸エステル共重合体エマルジョン)、エチレン酢酸ビニル樹脂エマルジョン、酢酸ビニル樹脂エマルジョンのいずれか、又は組合せた仕様、又はシーラーなしとする。</p>
基 材	<p>不燃材料 (金属板を除く)</p> <p>平成12年の建設省告示第1400号に例示された不燃材料のうち、すでに化粧を施されたもの及び鉄鋼、アルミニウム、金属板を除くもの</p>

4. 構造説明図

(寸法単位: mm)



※平成12年の建設省告示第1400号に例示された不燃材料のうち、すでに化粧を施されたもの及び鉄鋼、アルミニウム、金属板を除くもの。